

# 企業ニュース 大林組

(東証1部:1802) <http://www.obayashi.co.jp/>

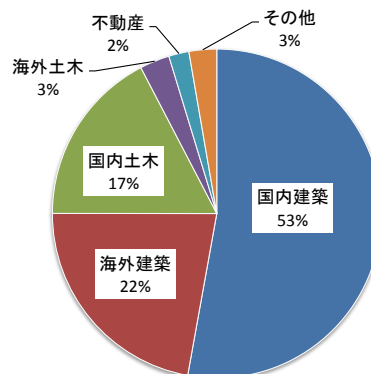
作成者: 荒木晶子

## 関西を地盤とする総合建設大手

1892年、大阪府で創業した総合建設大手。関西を地盤としており、甲子園球場や大阪城の天守閣、1970年の大阪万博ではお祭り広場などの主要施設を手掛けた。また、首都圏での都市開発にも参画し、東京スカイツリーや虎ノ門ヒルズなどを施工した実績がある。

2017~2021年度の中期経営計画では、売上高2兆円程度、営業利益1,500億円程度を目指す。主力の建設事業を維持・拡大しつつ、再生エネルギーなどの新領域事業の育成に取り組む。また、2025年の万博開催地が大阪に決定したことにより、関西を地盤とする当社が注目されている。2020年の東京オリンピック・パラリンピック後の案件増が見込まれ、中長期での安定成長が期待される。

◇セグメント別売上高構成比 (19.3期・第2四半期累計)



(出所) 大林組資料よりCAM作成

## 通期では過去最高益を更新する見込み

19.3期・第2四半期累計(4-9月)の連結業績は、売上高が9,371億円、前年同期比2%増、営業利益が650億円、同4%増。計画に対して売上高は229億円の未達だが、営業利益はほぼ計画線だった。単体は建築で着工したばかりの工事が多く出来高の進捗が低かったため、前年同期比で減収減益となったが、海外子会社の工事の順調な進捗によりカバーした。受注高は8,757億円、同1%減。土木の案件が下期にずれたことなどが要因となった。

19.3期の通期会社計画は、売上高が1兆9,700億円、前期比4%増、営業利益が1,390億円、同1%増。営業利益は、建設事業が前期比6億円減、不動産事業が同13億円増、新領域事業が同4億円増の計画。受注高は1兆9,300億円、前期比3%増を見込む。次世代型の自動品質検査システムやトンネル工事の際の地盤調査に利用する自走式孔内観察ロボットなどを開発して、短時間化・省力化を図り、生産性の向上や働き方改革を推進する。

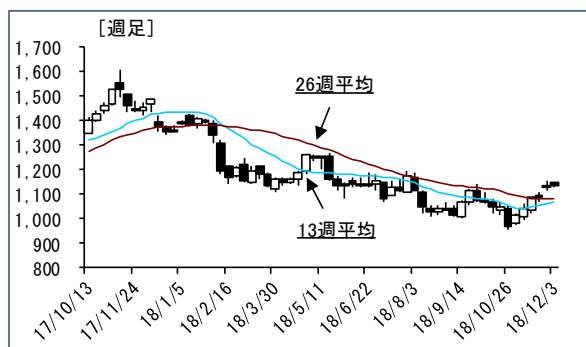
### [株価動向・投資判断]

株価は2017年11月から下落傾向だったが、堅調な業績と2025年の大阪万博決定により反転の兆しがみられる。中長期では、イノベーションを活用した生産性の向上で利益成長が期待される。

<1802 大林組 業績:日本基準>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高	営業利益	経常利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
17.3	1,872,721 ( 5)	133,742 ( 26)	140,106 ( 26)	94,501 ( 49)	131.7	28.00
18.3	1,900,655 ( 1)	137,800 ( 3)	143,951 ( 3)	92,662 ( ▲2)	129.1	28.00
19.3 予	1,970,000 ( 4)	139,000 ( 1)	144,500 ( 0)	98,000 ( 6)	136.5	28.00



[主要株価指標] (売買単位:100株)	
株価(2018/12/3)	1,132 円
年初来高値(高値日)	1,426 円(18/1/9)
同 安値(安値日)	952 円(18/10/26)
予想P E R(19.3予)	8.3 倍
1株株主資本(PBR算出用)	1,019.4 円
P B R	1.11 倍
予想配当利回り	2.47 %
(1株当たり配当金年28.00円)	
R O E(18.3)	14.5 %
発行済み株式数	72,151 万株